

第 191 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 12 月 22 日（木）9：30～10：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題事項>

- ◇ 議論の結果、要請期間令和 4 年 12 月 22 日～令和 5 年 1 月 13 日の間、感染拡大を抑制し社会経済活動を継続するための対策期間として、現在のレベル 1 をレベル 2 に引き上げて、県民及び来訪者、事業者に向けた注意喚起を行うことと決定した。

◇ <その他報告事項>

- ◇ 新型コロナ・インフルエンザの大規模な流行が同時に起きる場合に備えた外来受診・療養の流れについて、共有した。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、
糸数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、砂川 産業雇用統括監、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、長濱 企業企画統括監、
喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、
高山 医師 佐々木 医師
テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席 池田 副知事

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について【資料 1～7】

➤ 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。

- ✓ 病床使用率は 11/26 より 20%を超えており、12/14 からは 30%を超えている。
重症者用病床使用率は 12/7 に 25.9%だったが、その後減少し 1 桁台となっている。
- ✓ 前週比は 11/19 から 1 を超えており、その後減少し直近では 1.02 前後で推移

している。

- ✓ 人口 10 万人あたりの新規陽性者数は、12/13 の 301.75 から 300 人台が続いている。
- ✓ 新規陽性者数は、12/13、昨日共に 900 人を超える数値となっている。
- ✓ 入院中の患者は 2 週間前 165 名、1 週間前は 209 名で、現在 200 名を超える日が続いている。
- ✓ 宿泊施設療養中の人数も 200 人台で、一時 300 人を超える日もあった。
- ✓ 全国の「直近一週間の人口 10 万人当たり新規陽性者数」では、佐賀県、鳥取県、熊本県など、中国・九州地方での感染が広がっている状況。沖縄県は全国 47 位と最小値を維持している状況。
- ✓ 沖縄県の年代別新規陽性者数の推移では 10 月半ばより上向きのグラフとなっており、最も陽性者数が多いのは 40 代、次いで 30 代となっている。前週比で見ると、全体では 1.02 となっているが、70 代～90 代は 1 を切るような状況が見られる。
- ✓ 非コロナ病床利用率について、一般病床については県全体で 93.6%となっている。直近一週間で見ると、南部地区で 95%を超える日が続いており、本島全体でも 93%を超えている。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、12/21 は 268 名が休業しており、今年最も多かった 1,277 名よりは低い水準が続いている。内訳としては看護師、コメディカルの休業者が多い。
- ✓ ワクチン接種状況について、12/20 時点では、1 回目、2 回目ともに 70%台となっており、3 回目は 50.6%となっている。高齢者のみだと 3 回目接種は 85.5%が完了している。4 回目接種については 60 歳以上のみの集計で 63.8%、5 回目接種については 60 歳以上で 23.1%が接種している。
- ✓ オミクロン株対応ワクチン等接種対象者数及び接種実績について、12/20 時点

の接種対象者は1,028,780名、接種実績は264,207回で接種率は25.68%となっている。60歳以上に限ると接種率は36.6%となっている。

- ✓ 出向き接種の状況、商業施設では12月にイオンモールライカム、うるマルシェ、イーアス豊崎での出向き接種を行った。いずれの会場でも200名を超える接種を行っている。12/24にうるマルシェでの接種を予定している。
- ✓ 県庁・大学の接種では、自治体、拓南製鐵、沖縄海邦銀行、沖縄国際大学、北谷町役場、沖縄県庁で出向き接種を行っている。

(2) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 12/21の県立病院の入院患者は57名で前回報告より26名増、前々回報告より42名増。現在沖縄県のコロナ入院患者のうち47.1%を占めている。
- ✓ 県立病院の入院患者は、北部病院16名、中部病院10名、南部医療センター7名、宮古病院11名、八重山病院8名、精和病院5名となっている。非コロナ病床稼働率は南部医療センターで100%、中部病院で92.1%、離島はやや空床があり県立病院全体で87.0%となっている。
- ✓ 北部病院では救急は通常通りで特に病院に負荷はない。
- ✓ 中部病院では発熱患者が増加し、救急室前に待機する車も増加している。一般外来の患者は多く混雑しているが、今のところ診療制限をするほどのひっ迫感はないように思われる。
- ✓ 南部医療センターでは先週からコロナ病床を拡大して患者増に備えている。一般病床の利用率は連日100%に近いが、職員の休業者は少なくなんとか維持している。12月の救急室受診者は50~70人/日ほどで、患者が多い日曜日でも100人を超えることはない。また発熱患者は10~20人/日と多くなく、現時点では発熱外来棟を使用せずに診療している。

- ✓ 宮古病院の入院患者は 11 人。一般、救急外来は大きな変化はない。
- ✓ 八重山病院の入院患者は 8 人。発熱外来及び救急外来の患者の受診状況は通常通りで、特に病院に大きな負荷はなく落ち着いている。土日に限っては小児救急患者が若干増加傾向にあるが、現場に大きな負荷がかかるほどではない。
- ✓ 精和病院の入院患者は 5 人。職員の休業者が徐々に増加しており、今後急速に増加する可能性がある。現在は一般診療、救急当番も通常通り行っている。

(3) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 今週の陽性者は 65 人で、先週の 31 人の 2 倍以上。先週までは前週比 1 を下回る日が続いていたが、今週は 2.1 倍となっている。
 - ✓ 入院患者は 13 名。院内で患者が多数発生しているのも、その点も加味しないとけない。
 - ✓ 10 代が最も多く、次いで 40 代。50 代 60 代でも増えている。前週までは 5～9 歳が最も多かったが、減少傾向。
 - ✓ 学校閉鎖や事業所の閉所といった情報はない。
 - ✓ 元気な高齢者の忘年会による感染の増加といった情報は入ってきている。多良間村で感染者が増えたが、大規模な集まりがあったと聞いている。この影響があったのかと思う。
 - ✓ 高齢者施設の発生状況は今週 14 施設。先週が 1 施設だったため、大幅増。1 週間で最も発生した時期だと週 34 施設で発生していたので、まだそこまでは至っていない。施設内療養は 2 名。過去最大だと 67 名だったため、こちらもそこまでの規模には至っていない。
 - ✓ クラスタ一疑いでの対応中のケースは 1 件。施設ではワクチン接種が進んでおり、急激な感染拡大を防げているのかと思われる。

- ✓ 多良間村から1件八重山へ移送を行った。搬送時間の短縮の観点から、コロナ以外の急患についても八重山に移送を行っていることが多い。
- ✓ 海上保安庁の移送については、未だに過剰な消毒対応をしている様子。県対策本部の作成した、離島の搬送方法について、少し食い違っている点がある。今後ウィズコロナや5類相当になり感染症に規定されない移送も発生する可能性はあるので、双方話し合いが必要だと思った。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 直近一週間で155名の陽性者。人口10万人あたり287名程度で、県全体に比べると少なくなっている。11月上旬からの感染状況を見ていると、少し下がり気味。届出状況は陽性者の2～3割程度。
 - ✓ 年代別では割合が高い順に、10代、40代、30代が多くなっている。
 - ✓ 小規模離島からの届出状況については、12月に入ってから竹富町3、与那国町1で、全員それぞれの離島で療養中。
 - ✓ 12月に多良間村から八重山への移送について対応を行った。
 - ✓ 高齢者施設でのクラスターについては、12月上旬で発生したが、今は落ち着いている。1年以上高齢者施設等で発生する場合には探知できるようになっているので、情報収集を行いながら対応しているところ。
 - ✓ 保健所の体制については通常業務に対応しつつ、移送等が発生した場合には各班で対応している。
 - ✓ 年末年始の所内体制についてはオンコール体制を基本として、発生届での対応で最低限の出勤を行う。PCR検査場などについて情報を収集し、管内関係機関へ共有する予定。

(4) 空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCA等の状況【資料8】

➤ 文化観光スポーツ部より報告

- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、12/12 の週の受検者は 1,368 名で、前週比-102 名。内訳は、県内在住者 1,245 名、県外在住者 123 名、陽性者は 29 名で、陽性率は 2.1%となっている。発生届対象者は 0 名。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 447 名。前週比+21 名。うち県内在住者 273 名、県外在住者 174 名、抗原検査陽性は 3 名であった。
- ✓ TACO について、12/12 の週の電話対応件数は 61 件で、うち健康相談・問診実施数は 25 件となっている。

(5) 感染症対策専門家会議の概要について【資料 9】

✓ 総括情報部より報告

- ・ 12/19 に開催された専門家会議の発言要旨について説明。
- ✓ はじめに、県内の感染状況について及び新型コロナ・インフルエンザ同時流行下の外来受診・療養の流れについて以下のとおり報告を行った
- ✓ 今は、警戒レベル 1「感染小康期」で、重症化リスクを問わず外来受診等を行う流れである。
- ✓ 警戒レベル 2 になると、妊婦・透析患者や、高齢者、基礎疾患のある方、小学生以下のうち症状が辛い（ぐったりしている）などで受診を希望する方は引き続き外来受診するが、それ以外の症状が強くない方は自己検査、又は、検査なしで自宅にて経過観察とし、救急がひっ迫しないようにする。
- ✓ 議題として、警戒レベルの判断にかかる保健医療の負荷及び感染状況について及び沖縄県対処方針（案）の主な変更内容について説明があった。
- ✓ 病床使用率が 30%を超え、徐々に入院医療の負荷が高まってきているため、警戒レベルについて、保健医療の負荷の状況、社会経済活動の状況及び感染状況に関する事象等について、専門家等の意見も参考に、総合的に判断する

必要がある。

- ✓ 対処方針（案）の変更については、令和5年1月13日までの期間で、①要請内容の強化として、陽性者の増加に伴い「外来受診・療養のながれ（感染拡大時）」に沿って、受診フローの呼びかけを行う。
- ✓ 委員の主な意見などについては以下のとおり。
- ✓ 新型コロナ・インフルエンザ同時流行下の外来受診・療養の流れについて
- ✓ 感染拡大時に発熱外来とオンライン診療がどれだけ整備されているかが、このフローにおいて重要である。第7波の時は、それができず崩壊した。
- ✓ 年末年始に向けた対応として、発熱外来については、医師会を通して呼びかけを続けている。また、医師会とは、夏よりも早いタイミングでの発熱検査センターの設置ができるよう準備を進めているところである。
- ・ 警戒レベルの判断にかかる保健医療の負荷及び感染状況について
- ✓ 琉球大学病院においては、救急外来がひっ迫しているわけではなく、一般医療についても診療制限は行っていない。院内感染が起こって数値が上がることもあるため、この数値をもって医療ひっ迫とすることについては考えないといけない。
- ✓ 南部においては、じわりと救急が増えてきているが、非常に困っているということではない。欠勤者は徐々に増えている。
- ✓ 病床使用率等の全体のデータをみると、レベル2の感染拡大初期とするのが妥当と考える。
- ✓ 中部病院では、救急はひっ迫しているとは聞いていない。
- ✓ 北部病院の救急はひっ迫していないが、感染者が増えれば、リスクの高い入院患者が増えることから、レベル2に上げるのは妥当と考える。
- ✓ 一般病床で普通の肺炎で施設から送られてくる患者が増えている。これにコロナが加わると厳しくなる。

- ✓ 漸増でもひっ迫は蓄積されることを考慮すると、レベル2とすることは妥当。
 - ・ 沖縄県の対処方針について、以下の通り意見があった。
- ✓ レベルに関係なく県民全体で感染を防ぐために、県内の具体的な感染状況の情報提供を行うことが大事である。
- ✓ 冬休みなど家族ぐるみで人が移動する期間であるため、できるだけ県民に注意喚起するという含めてのレベル2という考えもある。
- ✓ レベル3の地域はなく、レベル2から上げた先がない。今後、年末年始で感染が増えた場合、どう対応するか考えておかなければならない。
- ✓ 病床使用率が40%を超えたときはさらに注意を促す強めのメッセージも出さなければならない。
 - ・ ワクチン接種について、以下の通り意見があった。
- ✓ 3回目接種でかなり低下しているので、ターゲットを絞った方が効果的。
- ✓ 3回目接種していない人の行動パターンを調べる必要がある。
- ✓ 40代や50代は、ワクチン接種の必要性が理解されていない方が多いことから、さらなる県の広報活動が必要になる。
- ✓ 妊婦や透析患者など、カテゴリ別接種率のデータがある場合は、共有すべき。
- ✓ 実効性を高めるためにワクチン接種した人などにインセンティブを与えるなど、協力要請よりも一歩踏み込んだ対応を考えるべき。

(6) 質疑応答

→特になし

3 議題

(1) 沖縄県警戒レベルの移行について【議題資料1】

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 沖縄県警戒レベルについて、指標となる①病床使用率と②重症者用病床使用率のうち、①病床使用率の現在の状況が31.7%となっており、レベル2相当の状況が続いている。
- ✓ 事象として、保健医療の負荷の状況のうち、外来医療の状況では、先日開催された感染症専門家会議の委員より、患者の増加による診療制限を行っている医療機関はないものの、地域によっては医療従事者の休業者の増加や院内感染の発生も見られ、保健医療への負荷は徐々に高まっていることから、レベル2への移行は概ね妥当との意見であった。県立病院において、多くの機関では発熱・救急外来のひっ迫が見られる状況にはないものの、一部の機関では発熱患者の増加が見られる。
- ✓ 救急医療の状況は、一部の医療機関で土日の小児救急患者の増加がみられるものの、現場には大きな負荷がかかっている状況ではない。
- ✓ 入院医療の状況について、重点医療機関の医療従事者の欠勤者は12月に200名を超える状況で推移しており、入院医療への負荷が高まっている。
- ✓ 社会福祉施設等療養状況について、療養者数は12/20時点で198名となっており、12月に入り増加している。
- ✓ その他、例年冬場は救急受診者が増加する傾向。季節性インフルエンザは非流行期（第49週 12/5-12/11時点）
- ✓ 社会経済活動の状況として、職場等での欠勤者の状況では、県の所管する関係団体等において、職場の欠勤者は散発的に発生しているものの、業務継続に支障が生じるまでの状況とはなっていない。これらの事業者は、電気・ガス・通信事業者、離島も含む航空・空港・港湾、県警察、交通事業者、建設業者、農業・水産業、廃棄物処理、ホテル等観光業者、学校、老人施設、県立病院、企業局など。

- ✓ 感染状況として、陽性者数の増加というところでは、11/19 以降、前週比 1 を超える状況が続いている。
- ✓ 指標「病床使用率」は 30%超とレベル 2 相当の水準となり、上昇傾向が続いている。事象における「社会経済活動の状況」は、事業者の業務継続に支障が生じるまでの感染状況とはなっていないものの、「保健医療への負荷の状況」及び「感染状況」は徐々に悪化しており、今後も同様の傾向が続くと考えられる。
- ✓ 以上の指標及び事象を総合的に勘案し、沖縄県の警戒レベルを「レベル 1（感染小康期）」から「レベル 2（感染拡大初期）」に移行する。

（2）沖縄県対処方針の変更について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 警戒レベルの移行に伴い、対処方針の変更を行う。
- ✓ タイトルは、感染拡大を抑制し社会経済活動を継続するための対策期間とする。
- ✓ 要請期間は、令和 4 年 12 月 22 日（木）～令和 5 年 1 月 13 日（金）とする。
- ✓ 基本的な考え方についてはタイトルのとおり、区域は沖縄県全域。
- ✓ 現況として、沖縄県では、11 月以降、新規陽性者数の増加が継続しており、地域によっては医療従事者の休業者の増加が見られる。病床使用率は 30%台で推移しており、高齢者施設等における療養者数は、12/20 時点で 198 名となるなど、増加している。救急の現場に大きな負荷はかかっていないが、毎年冬場には、救急受診者が増加する傾向にあり、感染が広がると、負荷が増大する懸念がある。
- ✓ 県の方針として、警戒レベルを 2 に引き上げて感染対策とワクチン接種を呼びかける。また、重症化リスクや症状等に応じた受診の呼びかけを行う。
- ✓ さらに感染が拡大し警戒レベル 3 に移行した場合は、医療ひっ迫防止対策強化宣言を行い、県民や事業者等に対して医療ひっ迫を防ぐための協力要請・呼び

かけを実施することを事前に周知しておく。

- ✓ 2ページ目、県民の皆様へのお願いとして、沖縄県内では、過去2年間、年末年始に感染が拡大しており、県民・事業者の皆様への感染への備えと感染対策のご協力について4点記載している。
- ✓ 1つ目が、オミクロン株対応ワクチンの接種を積極的に検討してください。
- ✓ 2つ目が、日頃から3密を回避し、換気・適切なマスクの着脱・手指消毒・毎日の健康観察を習慣化しましょう。
- ✓ 3つ目が、会食や友人との交流の際は、できるだけ大人数、長時間の集まりを控えてください。
- ✓ 4つ目が、発熱、のどの痛み、咳、鼻水など、少しでも症状がある場合、通勤、通学、外出、会食を控えてください。
- ✓ 3ページ目に、4つの項目について細かく記載している。
- ✓ 「①ワクチン接種」の項目で、国の対処方針に合わせた形で、生後6か月以上12歳未満の対象者も接種の検討をお願いしますと記載している。
- ✓ 「②日頃から」の項目で、マスクについては、場面に応じた適切なマスクの着脱と記載している。また、抗原検査キットについて、これまでは医療用抗原検査キットと記載していたが、一般用という名称で販売されているものもあるため、医療用・一般用と記載している。
- ✓ 「③会食や友人との交流の際は」の項目で、国の対処方針に合わせ、場面に応じた適切なマスクの着脱と記載している。
- ✓ 「④体調不良のときは」の項目で、症状に応じた受診の流れとして、妊婦や透析患者はかかりつけ医を利用し、症状がづらい方（水分がとれない等）で受診を希望する方は、県の発熱コールセンターに相談してください。軽症であれば医療用・一般用の抗原検査キットを活用し、市販薬で自宅療養してくださいと記載している。

- ✓ 4 ページ目、来訪者（沖縄への来訪を検討している）の皆様への項目について、来県前の検査の呼びかけとして、年末年始の期間を安心・安全にお過ごしいただくため、帰省前、帰省先から戻った際に、PCR等検査を受けていただくようお願いいたします。PCR等検査は、全国で1万3千箇所以上あるお近くの無料検査事業の拠点で、無料で受けられます。と記載している。
- ✓ 5 ページ目、飲食店等の皆様への項目については特に変更はない。
- ✓ 6 ページ目、イベントの開催について、大きな変更はないが、国の通知に合わせた表現としている。イベントに参加される方々への直行直帰の呼びかけについて、国の対処方針では現在呼びかけていないことから、削除している。
- ✓ 7 ページ目、事業者の皆様への項目について、事業継続が求められる業種は、事業継続計画（BCP）の策定や再点検を行うことと記載している。
- ✓ 同じく7 ページ目にある、高齢者施設、障害者施設へのお願いとして、「高齢者施設・障害者施設における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル（沖縄県コロナ対策本部）」及び「介護現場における感染対策の手引き（厚生労働省）」に基づき対応すること、BCPの策定に努め、陽性者の周囲への一斉点検を行うこと、面会についての対応方法について記載している。
- ✓ 8 ページ目、各市町村における県と連携した取組の実施として、市町村におかれましては、オミクロン株対応ワクチン接種の加速化を図ってくださいと記載している。
- ✓ 同じく8 ページ目、学校等へのお願いとして、適切なマスクの着脱を周知することを記載している。部活動について、感染リスクが高い活動を控えることと記載されていたが、国の対処方針に沿った形で削除する。
- ✓ 県が実施している「RADECO」について、未就学児も対象となったため、その旨を記載している。
- ✓ 9 ページ目に、年末年始に即した形で4点について呼びかけを記載している。

- ✓ 1. ワクチン接種の項目で、年末年始に帰省される方、成人式等のイベントに参加される方、受験を控えている方は、早めにワクチン接種すると安心ですと記載している。
- ✓ 2. 感染対策を心がけましょうの項目で、大人数での会食を控え、体調が悪い方は参加しない、させないを徹底することを記載している。また、年末年始は多くの医療機関が休診となるため、発熱した場合に備え、各家庭で3日分の食料と抗原検査キット、解熱剤の準備について記載している。
- ✓ 3. 軽症の方は、検査キットを活用し、陽性者は自宅療養してくださいと呼びかけを記載している。
- ✓ 4. 帰省やイベント参加の際には、体調管理を徹底してくださいと記載している。
- ✓ 10 ページ目、「コロナかな?と思ったら」を年末版の症状に即した形でのフローを掲載している。
- ✓ まず、新型コロナに感染していないか不安があり、検査を受けたい方で、症状がありかつ、(1) 妊婦・透析患者、(2) 症状がつらく受診希望の方については、まずかかりつけ医に相談。相談する医療機関に迷う場合はコールセンターに相談。
- ✓ (1)、(2)以外の者は、自己検査を行い陽性、陰性のパターンに沿って対応。また、検査をせずに経過観察をしている方に対しても、急な症状があれば発熱コールセンターを案内する形としている。

(3) 質問応答

- ✓ 「コロナかな?と思ったら」の案内について、症状ありで(1) 妊婦・透析患者、(2) 症状がつらく受診希望の方については医療機関への案内となっているが、高齢者についてもこちらに含まれるのか。

→「コロナかな?と思ったら」の案内では、高齢者であっても症状がつかない場合、(1)～(2)以外の者に含まれる。感染者がどんどん増えていく中では症状に応じた形での案内としている。

→世界的な潮流としては、高齢者へ抗ウイルス薬を迅速に投与することが死亡を減らすことになっているため、陽性であればかかりつけ医に相談して投薬した方がよいと思う。特にワクチン未接種の高齢者であれば、軽症でも投薬した方がよいと思う。専門家会議で相談された方がよいかもしれない。

- ✓ 対処方針の変更について、何点か意見を。まず1ページ目の高齢者施設等の利用者に対して一時帰宅時等の節目での検査を行うことについて、ガイドラインでも一時帰宅し24時間以上経った場合、検査で確認することとなっているため、沖縄でも定着すればよいと思うが、PCR検査と書かれていない点が気がかり。抗原検査キットより精度は高いので、高齢者施設では積極的なPCR検査を推奨する。
- ✓ 3ページ目の医療用・一般用の抗原検査キットについては、医療用（一般用）とした方がよい。
- ✓ 同じく3ページ目の妊婦や透析患者はかかりつけ医を利用の記載について、妊婦や透析患者を含め、かかりつけ医がいる方はかかりつけ医を利用とした方がよい。
- ✓ 6ページの飲食を提供する場合の飲食時の感染対策（飲食に伴いマスクを外す際の会話自粛等）について、黙食はやめる方向になっており、できない感染対策については言わないほうがよい。
- ✓ 8ページ目、「RADECO」の濃厚接触者となりうる同居家族の抗原検査までは不用ではないかと思われる。

→ご指摘いただいた点について、検討して修正するなど対応したい。

- ✓ 警戒レベルを2に上げる一方、対処方針については国の方で緩和されていることもあり、県の対処方針も緩和されているようだが、レベルを上げることと矛盾が生じないか。

→レベル判断については、指標となる数値の変化、その他事象の状況によって判断されるものであり、現在はレベル2相当と考えられる。対処方針については、中身は県民、事業者に向けたものであり、これまでの対処方針から強化されたものはあまりないが、医療機関のひっ迫からの医療崩壊が起こらないよう受診行動や様々な方法を対処方針に含めている。

- 議論の結果、要請期間令和4年12月22日～令和5年1月13日の間、感染拡大を抑制し社会経済活動を継続するための対策期間として、現在のレベル1をレベル2に引き上げて、県民及び来訪者、事業者に向けた注意喚起を行うことと決定した。

4 その他

- (1) 新型コロナ・インフルエンザの大規模な流行が同時期に起きる場合に備えた外来受診・療養の流れについて

- 総括情報部より報告

- ✓ 国が示したフロー図では、重症化リスクの高い方として、子ども、妊婦、基礎疾患がある方、高齢者については一律で発熱外来、かかりつけ医、地域外来・検査センターに受診する流れとしていたが、沖縄県では、警戒レベルに応じて異なっており、レベル1であれば、発熱等体調不良を訴える方については重症化リスクを問わず、発熱外来・かかりつけ医あるいは検査キットでの自己検査を選択でき、フローに応じた対応となっている。レベル2以上の状況では、妊婦、透析患者、基礎疾患がある方、高齢者、小学生以下のうち、症状が辛い（ぐったりしている）などで受診を希望する方については、発熱外来・かかり

つけ医を受診しフロー図に沿った対応をしてもらう形としている。それ以外の感染疑いの方については、検査キットを用いて自己検査もしくは自宅で経過観察となっている。

(2) 質疑応答

- 特になし

閉 会